

# 鈴鹿市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)※目標値の確認

- ・本市における温室効果ガス総排出量は、二酸化炭素排出量が93%を占める。(表1)
- ・本市は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、鈴鹿市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)を策定し、以下の①、②の二酸化炭素排出量をそれぞれ目標値としている。(表2)

①「エネルギー起源二酸化炭素排出量」・・・11,518t-CO<sub>2</sub>

(石油や石炭などの化石燃料を燃焼して作られたエネルギーを利用することによって生じる二酸化炭素)

②「非エネルギー起源二酸化炭素排出量」・・・9,963t-CO<sub>2</sub>

(廃棄物の焼却から生じる二酸化炭素)

## ◆(表1)温室効果ガス総排出量

2013(H25)年度(基準年度) (t-CO<sub>2</sub>)

	二酸化炭素	メタン	一酸化二窒素	HFC	総排出量
排出量	30,276 (95.3%)	359 (1.1%)	1,146 (3.6%)	4	31,785 (100%)

内訳: エネルギー起源二酸化炭素 19,196  
非エネルギー起源二酸化炭素 11,080

2023(R5)年度 (t-CO<sub>2</sub>)

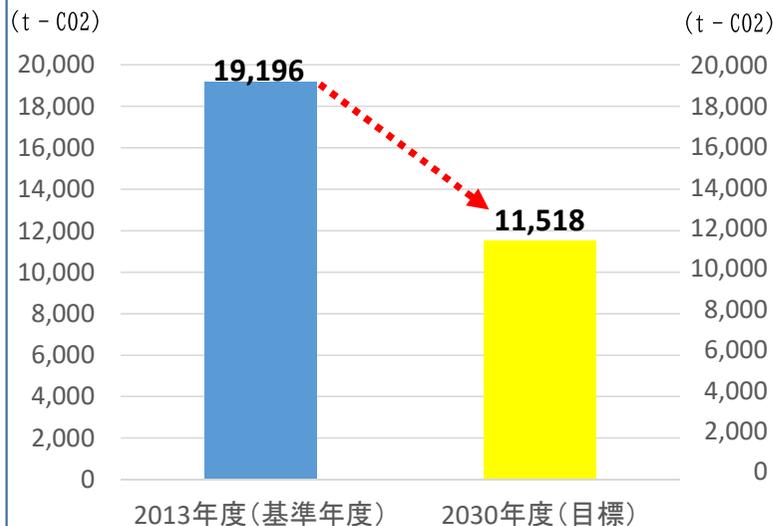
	二酸化炭素	メタン	一酸化二窒素	HFC	総排出量
排出量	20,597 (93.0%)	452 (2.0%)	1,083 (4.9%)	4	22,136 (100%)

内訳: エネルギー起源二酸化炭素 8,531  
非エネルギー起源二酸化炭素 12,066

## ◆(表2)二酸化炭素排出量の目標値

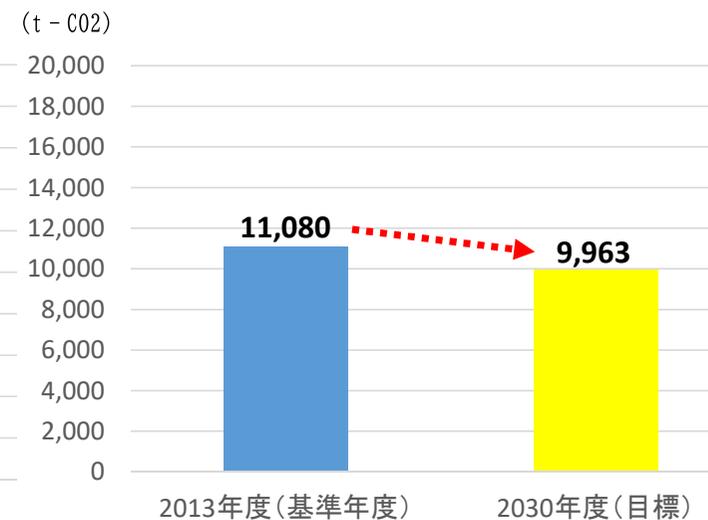
### ①エネルギー起源二酸化炭素排出量

2030(令和12)年度までに基準年度(2013(平成25)年度)と比較し、**40%削減**する。



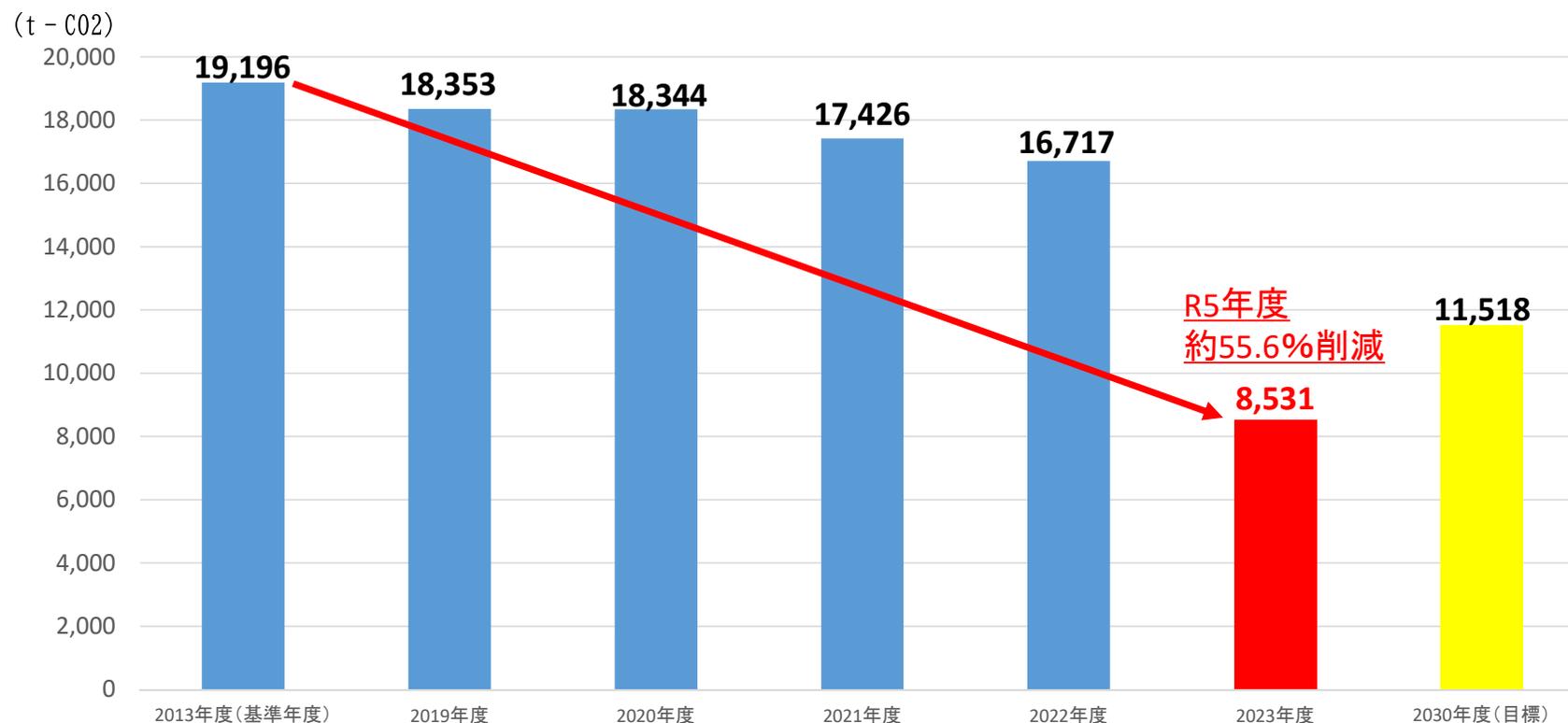
### ②非エネルギー起源二酸化炭素排出量

2030(令和12)年度までに基準年度(2013(平成25)年度)と比較し、**10%削減**する。



# エネルギー起源二酸化炭素排出量の進捗状況

- ・エネルギー起源二酸化炭素排出量は、2013(平成25)年度の基準年度と比較し、約55.6%削減した。
- ・大幅な削減となった理由は、高圧電力施設の電力を2022(令和4)年9月に設立した地域新電力会社である「鈴鹿グリーンエネルギー株式会社」へ切り替えを行ったことによるもの。供給する電力は、鈴鹿市清掃センターの廃棄物焼却熱を利用して発電した電力のほか、市内市外再エネ発電所から供給される電力であるため、その分の電気使用に伴う二酸化炭素排出量はゼロとなる。



# 非エネルギー起源二酸化炭素排出量の進捗状況

- ・非エネルギー起源二酸化炭素排出量は、基準年度と比較すると約8.9%増加した。
- ・非エネルギー起源二酸化炭素排出量は、プラスチック等の割合に関連しているため、引き続きプラスチックごみの削減の啓発を続け、二酸化炭素排出量の削減に努める。

